

日本舞踊のしおり

# 祐子の会

令和四年十一月二十二日(火)

午後六時開場 六時半開演

於・三宅坂 国立劇場(小劇場)

☎〇三(三三六五)七四一一

入場料 六千円(自由席)  
学生券 三千円(自由席)

西川扇藏振付

## 萩江 鐘の岬 西川 祐子

〈演奏〉

唄 萩江露喬

萩江寿秀

萩江露半

三味線

萩江寿邦

萩江寿慎

囃子 福原 百之助

笛 福原 徹

花柳茂香構成・振付  
藤舎名生作曲「乱綾の舞」より

創作 激

つ

西川 祐子  
花柳 基

笛 藤舎名生

〈録音〉

日本コロムビア株  
COCF-9388

主催 西川 祐子

東京都新宿区市ヶ谷台町八一十二

☎〇三(三三五五)二二三七

切符取扱い 西川流事務所(三三五五)二二三七

国立劇場チケットセンター(三三三三)三〇〇〇

照明 高木どうみょう・舞監 飯坂信広・庶務 加藤繁治  
衣裳 長竹輝雄(制作)／松竹衣裳・かつら 大澤・顔師 新井文雄

## 公演にあたって

和の美意識を研ぎ澄まし、心の中を型にして表わす日本舞踊。その心を受け継ぎ、どの様に未来に繋げてゆくのか…。

日本舞踊家として今の自分が第一にやる事。それは創ることを改めて見つめ直す事と考え、まずは先人達の足跡から答えへの道筋を求めることにしました。

総合舞台芸術としての日本舞踊の作品。私の師、父・十世宗家西川扇藏と花柳茂香先生が日本舞踊家の為に振り付けた作品に臨みます。

## 西川祐子

### 「鐘の岬」

「京鹿子娘道成寺」の一部分を抜粋して出来上がった地唄「鐘が岬」を、さらに初世荻江露友が詞章も旋律もそのままに荻江節に移曲。娘道成寺の気分が楽しめるぜいたくともいえる艶治な気分には溢れた作品です。

宗家西川扇藏が昭和四十二年七月に振付、上演された記録があります。以後同流の女流舞踊家の方達にも上演されています。

### 「激つ」

昭和五十四年十月十二日東横劇場「日輪の会」で花柳茂香構成・振付、藤舎名生作曲「乱綾の舞」より、前田哲彦美術、吉村雄輝夫、花柳茂香により上演。翌年「激つ」において示した振付、演技の充実した力倆と従来より創作舞踊の新生面に与えた業績に対して、第九回花柳壽應賞を受賞した作品。

題名に託された「激つ」男女のかたち……。

## 西川祐子(にしかわゆうこ)



六歳より父・西川扇藏(入間国宝、文化功労者)に手ほどきを受ける。二十二歳より花柳茂香師に師事。祐子の会を主催するほか、えんの会、NHKや国立劇場主催公演等に出演。また平成二十六年より祐子のしおり、研修会「日本舞踊の彩」西川流稽古場で催す等々、普及活動にも尽力している。

日本舞踊振興財団評議員、川村学園女子大学非常勤講師、大妻日本舞踊クラブコーチ。「むすびの会」理事。文化庁芸術祭優秀賞など受賞。

振付作品に「影媛」「花へんろ」「井筒」「あらべすく」「風や」「道成寺」など。

## 花柳 基(はなやぎもと)



二歳より母である花柳秀に師事し、六歳からは人間国宝・花柳壽楽師に師事する。

(公社)日本舞踊協会公演、国立劇場主催公演、テレビなどへの出演のほか、ジャポニスム 二〇一八

日本舞踊バリ公演や豊島区・仁川・西安の三都市にて開催された東アジア文化都市二〇一九開幕式典等ヨーロッパ・中東アジアなど海外での活動も多数。

主宰する「基の会」での花柳流作品を中心とした古典の研鑽、そして創作舞踊等これからの日本舞踊を視野に入れた新作も手がける。「五耀會」のメンバーでもある。

花柳流花柳会理事。(公社)日本舞踊協会理事。日本大学芸術学部演劇学科講師。日本体育大学武道科講師。埼玉県立芸術総合高校講師。

芸術選奨文部科学大臣賞。同新人賞。文化庁芸術祭賞優秀賞(弧の会)。花柳壽應新人賞。舞踊家批評家協会賞など多数受賞。